



# 5月・6月の管理ポイント

多くの地域は6月中、早い地域では5月には梅雨入りし降水量が多くなります。  
土壌中が過湿・酸欠状態にならないよう土壌環境を整えていきましょう。  
日差しが強い時期にもなりますので、ストレス対策も開始していきましょう。



サッチの除去  
土壌環境の健全化

## サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。梅雨入りまでに土壌の透水性や通気性を改善しましょう。

土壌微生物のが活発な時期なので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。  
使用量：グリーン0.2ml/m<sup>2</sup> ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m<sup>2</sup> 散布水量0.2-0.5ℓ/m<sup>2</sup>

根の生育しやすい  
土壌環境を整えましょう

## レボ

5・6月はベントグラスの生育適期です。レボは排水性が高く表層土壌の水分値を低めに保つため、過湿状態になりがちな梅雨時期にも気相をしっかりと保ちます。定期散布を行い根の生育しやすい土壌環境を整えましょう。  
土壌水分を高めたい場合はプライマーセレクト、発生したドライスポットの治療にはアクアダクトをご使用下さい。液肥などとのタンクミックスにはグリーンシナジーがおすすめです。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回

スポット処理に最適

## ハイドレーターG

乾燥が気になる箇所に手軽に処理できる、粒剤タイプの界面活性剤資材です。ドライスポットの予防と治療にご使用ください。降雨前に散布し、後散水の手間を省く省力散布がおすすめです。1mm程度の粒剤なので散布しやすく、5mm程度の散水で溶けます。張芝した箇所の乾燥対策にも効果的です。花壇や鉢植えにもご使用頂けます。

グリーン・ティー 使用量：ドライスポットの治療 20g/m<sup>2</sup>/週 予防10g/m<sup>2</sup>/月  
バンカー周り・クラブハウス周辺の芝地等 使用量：10g/m<sup>2</sup>/月  
花壇・鉢植え・プランター 使用量：約10ℓのプランターに小さじ1/2/月

強光ストレス予防

## インターセプト

5月にはすでに真夏並みの強い太陽光が降り注いでいます。ベントグラスにとって強すぎる太陽光は強光ストレスを引き起こす原因となります（過剰に取り入れた光により活性酸素が発生し細胞が傷つけられる）。インターセプト処理で、強すぎる光（ベントグラスが吸収する波長の可視光、紫外線）をカットし、強光ストレスを軽減しましょう。

使用量：1000-2500倍 散布水量：100-500ml/m<sup>2</sup> 散布間隔：7-10日

高温ストレスから  
ベントを守る

## ヒートファイター

ヒートファイターは、夏の厳しい暑さをベントグラスが生き延びる為のお勧め資材です。有効成分「ゼルンボン」が細胞を刺激することで植物自体が持つ高温耐性が活性化、通常では弱体化・致死してしまう程の高温でも生き延びられるようになります。梅雨明け前からの予防処理で、ヒートファイターの効果を最大限得られます。

使用量：0.5ml/m<sup>2</sup> 散布水量：100-500ml/m<sup>2</sup> 散布間隔：14日

土壌中の有害物質除去

## 光合成細菌

過湿状態の土壌中に発生しやすい硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン酸化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壌微生物の住みやすい環境を作ります。サッチ分解剤と組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

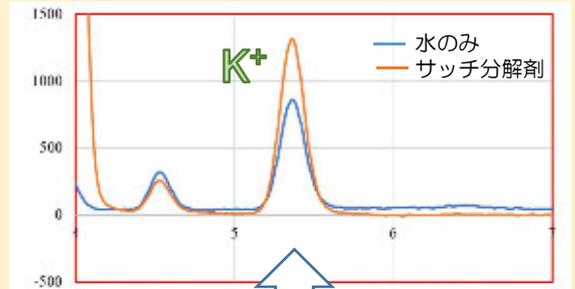
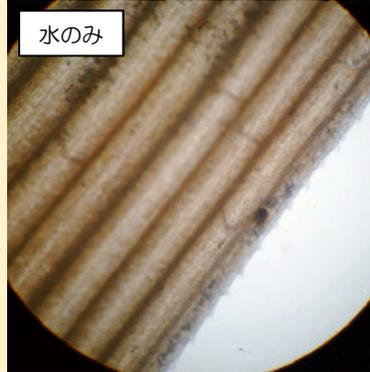
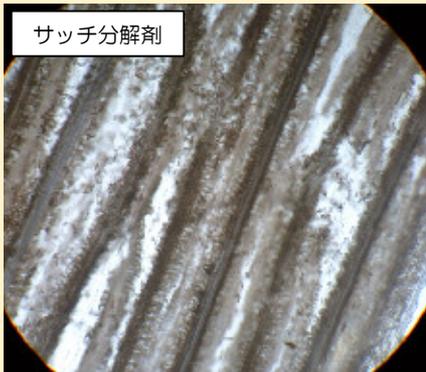
使用量：1~2ml 1ℓ/m<sup>2</sup>散布 月1~2回

前回は、サッチ分解剤(酵素剤)の効果とおすすめの使用スケジュールを紹介しました。  
 今回はサッチ分解剤による肥料分のリサイクル効果と、サッチ分解剤のタイプ(酵素剤・微生物剤)による使い分けについて紹介します。

## 肥料分のリサイクル

### ・刈りカス分解液の分析結果

ベントグラスの刈りカスを水またはサッチ分解剤(酵素剤)希釈液に浸漬し、  
 処理液を液体クロマトグラフィーで分析しました



刈りカスが分解され、  
細胞内のカリウムが漏出している

葉の組織がバラバラになっている！

### ・散布した窒素肥料の行方

下表\*はケンタッキーブルーグラスに施肥した窒素肥料がどこに行くのかを定量したデータです。  
 2年後(750日後)には半分以上が刈りカスとして回収されてしましますが、  
 20%以上の窒素分がサッチ内に残っています。

窒素量計測部位	施肥18日後	施肥750日後
	窒素回収量(%)	
刈りカス	3.1	55.2
有効緑葉量	46.7	2.7
サッチ	39.8	20.8
土壌	10.4	21.2
溶脱水	0	0.03

\*GCSAA GOLFCOURSE MANAGEMENT  
 July 2021, Vol.89, No.7  
 (Par5) To the Nth degree より抜粋  
 和訳：月刊ゴルフマネジメント 2021年10月号に掲載

20%以上の窒素分が  
サッチ内に蓄積されている！

刈りカスやサッチが分解されることで、蓄積した肥料分のリサイクル効果が期待できます！！

## サッチ分解剤のタイプと使い分け

サッチ分解剤はセルロース分解酵素のセルラーゼを直接散布する酵素タイプと、  
 セルラーゼを産出する有用微生物(バチルス菌など)を散布する微生物タイプに分けられます。  
 以下の表は、サッチ分解剤をタイプごとに比較したものです。

	酵素タイプ	微生物タイプ
効果の速さ	速効性	遅効性
殺菌剤との混用	○	△ (一部混用不可)
長期残効性	×	○ (定着した場合)
効果の安定性	○ 散布した分だけ機能する	△ 環境に左右されやすい

シーズン中のグリーンには散布量によってサッチの分解量を調整しやすい酵素タイプ  
 フェアウェイやラフには長期残効が見込める微生物タイプがおすすめです！！